百寿
遠藤トノさん
（大正15年10月1日生）

10月1日、遠藤トノさんが１００歳の誕生日を迎え、町から祝い状が贈呈されました。

城内小路地区に生まれたトノさんは、郵便配達員などを務め、２人のお子さんを大切に育て上げました。長男の進さんは「面倒見の良い世話好きな母です」と印象を語りました。

誕生日のこの日、トノさんはご家族から祝い状や花束を受け取るとたちまち笑顔になり、進さんをはじめとした多くの関係者に囲まれながら、特別な日を過ごしました。進さんは「元気そうな姿を見られてうれしい。お祝いのためにご協力いただいた皆さんに感謝したい」と敬意を表し、改めてトノさんの長寿を祝福していました。

遠藤トノさんは10月9日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。



▲温かな笑顔を見せるトノさん
写真提供：遠藤進さん、房子さん


1記念フォーラムでは同校の卒業生が経験を基に今を生きる生徒たちにアドバイス**2**多大な功績を称え岩脇実行委員長（手前）から感謝状が贈呈されました**3**生徒によるアトラクションでは自身の目標を１人ずつ発表

江刈中学校統合50周年・開校80年
歴史と伝統を感じ未来を創造する

江刈中学校統合50周年・開校80年の記念式典が10月3日、同校体育館で開催され、関係者約80名が出席しました。

実行委員会の岩脇巧委員長は「地域に支えられ江刈中学校が節目の年を迎えられた。在校生は歴史の先頭に立ち、新たな歴史を築く存在」と伝統を紡ぐ大切さを伝えました。来賓を代表し、鈴木重男町長は「生徒の個性を生かす教育を今後も推進し、次世代へと継承してほしい」と祝辞を述べました。

学校運営に尽力された歴代校長やPTA会長への功労者表彰では、これまでの功績を称え、実行委員会から感謝状が贈呈されました。江刈中卒業生による記念フォーラムでは「ふるさとと私～中学生へのメッセージ～」をテーマに、各分野で活躍する５人のパネリストを招いてパネルディスカッションを実施。当時の思い出や現在の仕事を始めるきっかけ、仕事への向き合い方について議論しました。在校生に向けては、興味関心ごとや夢を早期に見つけること、自ら挑戦する姿勢などの視点から助言しました。

この日の式典は、出席者にとって歴史の誇りを胸に、さらなる発展を祈念する新たな出発点となりました。

感謝状を贈呈された皆さん（敬称略）
▶歴代校長
中田 隆一（第16代校長　平成28、29年度）
加藤 純　（第17代校長　平成30、31年度）
高橋 治　（第18代校長　令和２、３年度）
鈴木 雅史（第19代校長　令和４、５年度）
▶歴代PTA会長
本宮 昭仁（平成28年度）　大道 靖司（平成29年度）
高宮 文昭（平成30、31年度）　惠津森 哲夫（令和２年度）
久保 淳（令和３年度）　千葉 信一（令和４年度）
木戸場 克郁（令和５年度～７年度）



レースがスタートすると「頑張れ！」と大きな声援を送りました

五日市小学校の全校児童が10月５日、創立150周年記念事業の一環である記念講演会「夢・希望フォーラム①」に講師として招いた同校の卒業生で、騎手として活躍する山本三兄弟からの招待を受け、盛岡競馬場を見学しました。

児童たちは、パドックやレースを間近で観戦。この日の第１レースでは山本三兄弟がそろって騎乗し、聡哉騎手が見事１着でゴールすると、母校の先輩が活躍する姿に目を輝かせました。その後山本三兄弟との交流会では、児童たちから次々と質問が寄せられ、騎手の仕事や競馬に関わる職業への理解を深める貴重な経験となった様子でした。

Interview


▲左から聡紀騎手、聡哉騎手、政聡騎手

政聡騎手は「私自身、中学生の時に学校の先生に競馬場へ連れてきてもらったことがきっかけで、騎手の道を志しました。皆さんにも実際に競馬場を訪れることで、将来の職業を考えるきっかけになればと思っていました。今回、こうして皆さんを招待することができ、私の夢が１つかないました」と話し、児童たちの未来にエールを送りました。



山本三兄弟と一緒に記念撮影


目の前で大迫力の競走馬を見学

㈱くずまき工房の新たな工場が完成
“林業のまち”の価値をより高める拠点に

㈱くずまき工房（竹川高行代表取締役社長）の新工場落成祝賀会が10月２日に行われ、関係者約40人が出席しました。

この日は関係者が新工場を見学。觸澤義美副町長は「最新設備とものづくりに対する情熱が調和する新たな拠点だと感じた。地域資源を生かす産業振興や地域雇用の創出など、地域経済の活性化に期待したい」と完成を祝いました。新工場は丸太から集成材生産までを行い、生産効率の向上により、製品の質向上や町産木材の利用拡大が図られることに。また、地域雇用の維持や町内の建築業者が利用しやすい町産木材の生産の実現に向けて、これから本格的に稼働します。


町産カラマツの木材を使用した新工場



◀最新設備で生産性の向上を実現